



Server Automation

ソフトウェアバージョン: 10.50

計画ガイド

ドキュメントリリース日: 2016年7月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2016年7月



Hewlett Packard
Enterprise

ご注意

保証

Hewlett Packard Enterprise製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Hewlett Packard Enterpriseはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterpriseからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2000-2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、Microsoft Corporationの米国における登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョン番号: ソフトウェアバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日: ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日: このソフトウェアバージョンのリリース日を示します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hpe.com/>

このサイトを利用するには、HPE Passportへの登録とサインインが必要です。HPE Passport IDの登録は、HPEソフトウェアサポートサイトで **[Register]** をクリックするか、HPE Passportのログインページで **[Create an Account]** をクリックしてください。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPEの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPEソフトウェアサポートサイトを参照してください。<https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトでは、HPEのお客様窓口のほか、HPEソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPEソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPEソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアバッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPEサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HPE Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HPE Passport IDを登録するには、HPEサポートサイトで **[Register]** をクリックするか、HPE Passportのログインページで **[Create an Account]** をクリックします。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE Software Solutions Nowでは、HPESWソリューションおよび統合ポータルWebサイトにアクセスできます。このサイトでは、お客様のビジネスニーズに合ったHPE製品ソリューションをご覧いただけます。また、HPE製品間の統合リストとITILプロセスのリストも用意しています。このWebサイトのURLは<https://softwaresupport.hpe.com/>です。

目次

概要	4
ファンリティに合ったSAコア構成	5
カスタマーがインストール可能なSAコア構成	7
追加コンポーネントの構成	13
パフォーマンスのスケラビリティ	17
ドキュメントのフィードバックを送信	22

概要

本書では、それぞれのファシリティに必要なSA構成を計画するために必要な情報について説明します。また、SAのパフォーマンスの拡張についても説明します。

- 「ファシリティに合ったSAコア構成」(5ページ)
- 「カスタマーがインストール可能なSAコア構成」(7ページ)
- 「追加コンポーネントの構成」(13ページ)
- 「パフォーマンスのスケーラビリティ」(17ページ)
- モデルリポジトリでのOracleセットアップ

ファシリティに合ったSAコア構成

サポートされているSAコア構成の詳細については、「[カスタマーがインストール可能なSAコア構成](#)」を参照してください。パフォーマンスのスケラビリティについては、「[パフォーマンスのスケラビリティ](#)」を参照してください。

ファシリティに最も適したSAコア構成は、主にファシリティ内のSAによって管理する必要があるサーバーの数に依存します。

一般的なSAコアインストールには、次の3つの主要コンポーネントがあります。モデルリポジトリ、インフラストラクチャーコンポーネントバンドル、および1つのスライスコンポーネントバンドルです。SAプロビジョニングでは、メディアサーバーとブートサーバーも必要になります。メディアサーバーとブートサーバーは、大量の負荷を発生させることがなく、また環境によって異なるため、下の表には含まれていません。SAコアコンポーネントの詳細情報が必要な場合は、『SA 10.50主要コンセプトガイド』の「SA概要とアーキテクチャー」を参照してください。

SAコアインストールのハードウェアを選択するための絶対確実な方法はありません。ただし、以下の2つの表に、高パフォーマンスを期待できるSAコアコンポーネントの推奨レイアウトをいくつか示します。

コアの拡張にはスライスの追加が必要です。各スライスにより、可用性の高いUI、API、OGFS、Build Manager、ゲートウェイリソースが追加されます。コアサーバーの数が少ない場合、2台の大型サーバーで開始し、スライスの追加によってコアの容量を増やすことができます。

以下の表で使用する略称は、次のとおりです。

MR: モデルリポジトリ

インフラ: インフラストラクチャーコンポーネントバンドル

スライス <x>: スライスコンポーネントバンドル

OS Prov: オペレーティングシステムプロビジョニングコンポーネントバンドル

小規模から中規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散	
	サーバー1	サーバー2
500	MR、インフラ、スライス0、OS Prov	なし
	MR	インフラ、スライス0、

小規模から中規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降) (続き)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散		
1000		OS Prov	
サーバー構成: 4 CPUコア、16 GB RAM、1 GB/sネットワーク			

中規模から大規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散				
	サーバー 1*	サーバー 2*	サーバー 3*	サーバー 4*	サーバー 5*
2000	MR	インフラ、スライス0、OS Prov	なし	なし	なし
4000	MR	インフラ、スライス0、OS Prov	スライス1	なし	なし
6000	MR	インフラ、スライス0、OS Prov	スライス1	スライス2	なし
8000	MR	インフラ、スライス0、OS Prov	スライス1	スライス2	スライス3
* サーバー構成: 8 CPUコア、16 GB RAM、1 GB/sネットワーク					

パフォーマンスのスケールビリティの詳細については、「[パフォーマンスのスケールビリティ](#)」を参照してください。

カスタマーがインストール可能なSAコア構成

次に、カスタマーインストール用にHPEによってサポートされるSAコア構成を示します。

1. SAコアおよびSA提供のローカルOracleデータベース

小規模のファシリティに適しています。詳細については[SAコアおよびSA提供のローカルデータベースのインストール](#)を参照してください

構成1



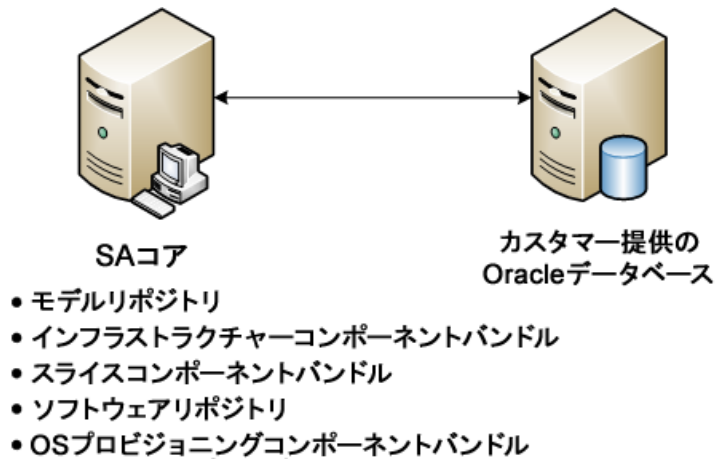
SAコア

- HP提供のOracleデータベース
- モデルリポジトリ
- インフラストラクチャーコンポーネントバンドル
- スライスコンポーネントバンドル
- ソフトウェアリポジトリ
- OSプロビジョニングコンポーネントバンドル

2. SAコアおよびカスタマーが提供するリモートOracleデータベース

小から中規模のファシリティに適しています。詳細については、[SAコアおよびカスタマーが提供するリモートOracleデータベースのインストール](#)を参照してください。

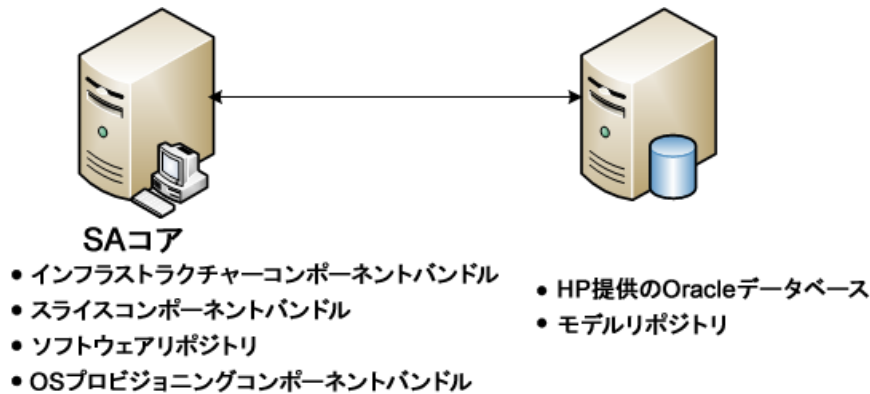
構成2



3. SAコア、リモートのモデルリポジトリとSA提供のOracleデータベース

小から中規模のファンシティに適しています。詳細については、[SAコア、リモートモデルリポジトリおよびSAが提供するリモートデータベース](#)を参照してください。

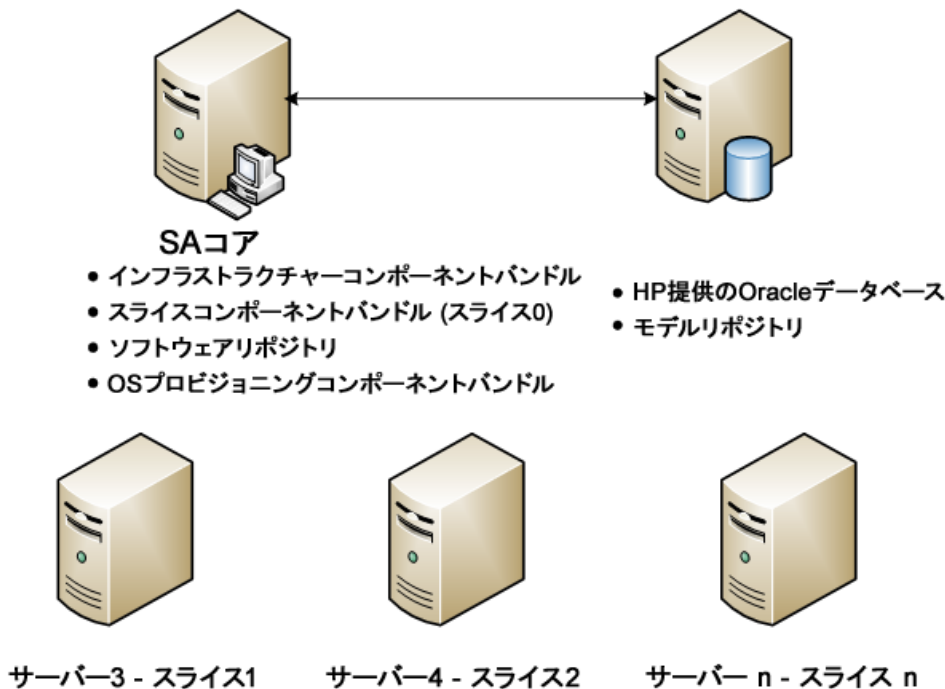
構成3



4. SAコア、リモートのモデルリポジトリとSA提供のOracleデータベース、追加のスライスコンポーネントバンドルインスタンス

インストールされているスライスコンポーネントバンドルの数に応じて、小、中、および一部の大規模のファシリティに適しています。詳細については、[SAコア、リモートのモデルリポジトリ](#)、[SA提供のOracleデータベースおよび追加のスライスコンポーネントバンドル](#)を参照してください。

構成4

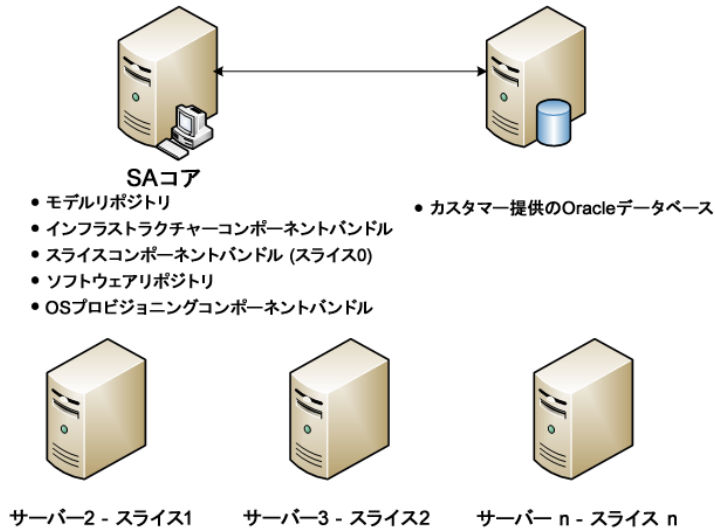


5. SAコアおよびカスタマーが提供するリモートOracleデータベース、追加のスライスコンポーネントバンドル

インストールされているスライスコンポーネントバンドルの数に応じて、小、中、および一部の大規模のファシリティに適しています。詳細については、[SAコアおよびカスタマーが提供するリモートデータベース](#)、[追加](#)

のスライスコンポーネントバンドルのインストールを参照してください。

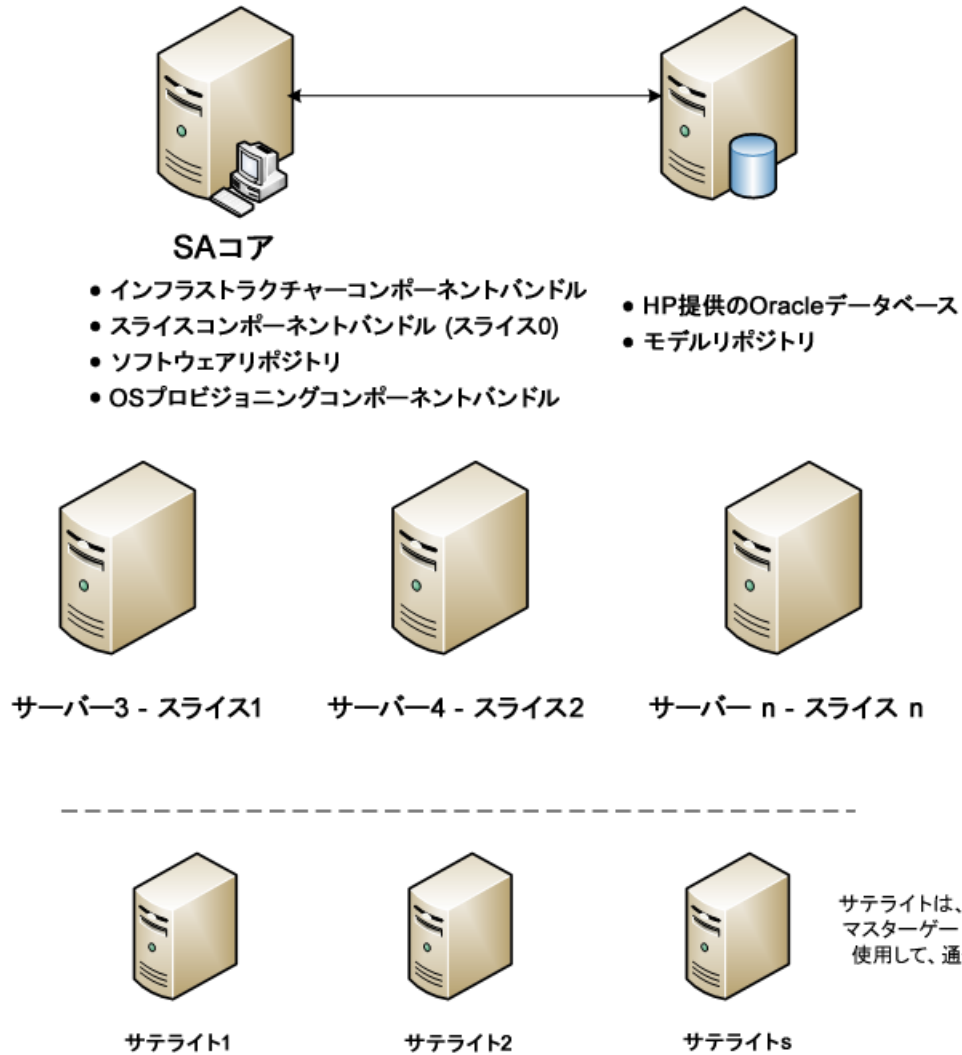
構成5



6. SAコア、リモートのモデルリポジトリとSA提供のOracleデータベース、追加のスライスコンポーネントバンドルインスタンスおよびサテライト

インストールされているスライスコンポーネントバンドルの数に応じて、小、中、および一部の大規模のファシリティに適しています。詳細については、[SAコア、リモートのモデルリポジトリとSA提供のOracleデータベース、追加のスライスコンポーネントバンドルおよびサテライト](#)を参照してください。

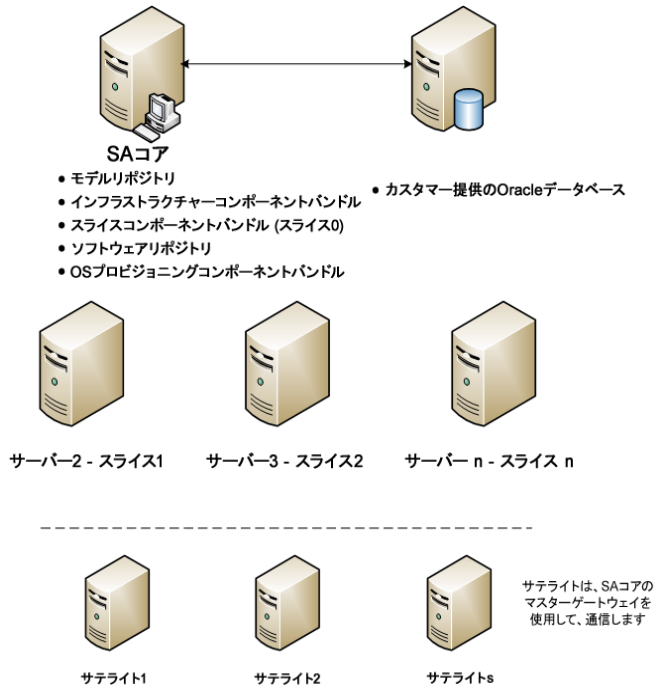
構成6



7. SAコア、カスタマーが提供するリモートOracleデータベース、追加のスライスコンポーネントバンドルおよびサテライト

インストールされているスライスコンポーネントバンドルの数に応じて、小、中、および一部の大規模のファシリティに適しています。サテライトインストールは、管理対象サーバーの数が完全なSAコアが必要なほど多くないファシリティに対応できます。詳細については、[SAコア](#)、[カスタマーが提供するリモートデータベース](#)、[追加のスライスコンポーネントバンドルおよびサテライト](#)を参照してください。

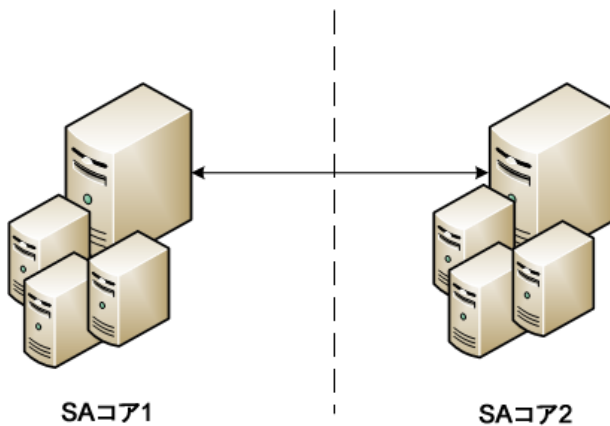
構成7



8. 第1 (プライマリ) コアと第2コア (マルチマスターメッシュ)

管理対象サーバーの数が多く、第2コアを必要とする中規模および大規模のファシリティに適しています。詳細については、[SA第1 \(プライマリ\) コアとセカンダリコア \(マルチマスターメッシュ\) のインストール](#)を参照してください。

構成8



追加コンポーネントの構成

ここでは、次の追加コンポーネントの構成について説明します。

- 「FIPSコンプライアンスオプション」(13ページ)
- 「IPv6ネットワークの有効化」(13ページ)
- 「暗号マテリアルオプション」(14ページ)
- 「SA ISOメディアのマウント」(14ページ)

FIPSコンプライアンスオプション

HPE Server Automation (SA) は、Federal Information Processing Standards規格 140-2に準拠します。これは、政府機関が検証済みの暗号モジュールを使用する機器を調達する際に適用するセキュリティ標準です。インストール時に`fips.mode`パラメーターを[有効]にすると、FIPSが有効になります。

インストールの際に、FIPSを有効にするかどうかを尋ねられます。

HPEは、通常のセキュリティ条件では、キー長が2048のSHA256を使用することを推奨しています。セキュリティ要件がもっと高い場合は、キー長4096でFIPSを使用するか、またはSHA-2ファミリーの別ハッシュ関数を使用しなければならない場合があります。ただし、FIPSまたはSHA-2ファミリーの別ハッシュ関数を使用すると、コアのパフォーマンスが低下する場合があります。詳細については、セキュリティ管理者にお問い合わせください。

[FIPS 140-2準拠](#)を参照してください。

注: FIPSモードでは、SAコンポーネントが適切に開始し機能するために、キャラクターデバイス `/dev/random` から得られる十分なエントロピーがコアサーバー上に存在する必要があります。

IPv6ネットワークの有効化

IPv6ネットワークを有効にするには、インストール後またはアップグレード後の手順として`enable_ipv6.sh` スクリプトを実行します。これにより、SA 10.2以降のSAコア、サテライトゲートウェイおよびOSプロビジョニングコンポーネント上でIPv6が有効になります。このスクリプトは、すべてのインフラストラクチャー、スライス、ブートサーバーおよびサテライトシステムで使用できます。詳細については、[インストール後のIPv6ネットワークの有効化](#)を参照してください。

IPv6およびenable_ipv6.shスクリプトの詳細については、『SA 10.50管理ガイド』の「SAのリモート通信の管理」を参照してください。

インストール後のenable_ipv6.shスクリプトの実行については、[インストール後のIPv6ネットワークの有効化](#)を参照してください。

暗号マテリアルオプション

SA暗号マテリアルを使用すると、SAコアコンポーネント間での暗号化された通信が可能になります。SAは独自の暗号マテリアルをインストールします。インストール時にプロンプトが表示されたら、SAが独自のマテリアルを生成することを許可してください。

このリリースでは、以前のSAインストール(SA 10.0以前)の暗号マテリアルを使用する場合に、既存の暗号ファイルをコピーする方法が使用できなくなりました。これは、SAでの暗号処理方法が強化されたためです。

ただし、SA 10.1以降の既存のSAコアから暗号ファイルをコピーすることはできます。既存のSAコアから暗号ファイルをコピーするには、インストールを開始する前に、暗号ファイル `/var/opt/opsware/crypto/cadb/realm/opsware-crypto.db.e`と `/etc/opt/opsware/crypto/security.conf`ファイルをSAコアまたは第1コア(マルチマスターメッシュ)をホストするサーバー上の同じ場所に保存します。インストール中は、インストーラーが暗号マテリアルを生成しないようにします。プロンプトされる際に、この暗号マテリアルにパスワードを入力してください。

SA ISOメディアのマウント

SAインストール/アップグレードメディアは、ダウンロードしたファイル構造内で次のカテゴリに分類されています。

- oracle_sas (HPE Server Automationデータベース)
Oracleデータベースのインストールに使用するメディア
- primary (HPE Server Automation製品ソフトウェア)
SAコアコンポーネントのインストールに使用するメディア
- upload (HPE Server Automationエージェントおよびユーティリティ)
SAコアの内容とツールをアップロードしてインストールするために使用するメディア
- sat_base (HPE Server Automationサテライトベース)

SAサテライトコンポーネントのインストールに使用するメディア。このメディアにはOSプロビジョニングコンポーネントは含まれないため、メディアサイズが小さく、ネットワーク上でメディアを転送する際に便利です。

- `sat_osprov` (OSプロビジョニングを含むHPE Server Automationサテライトベース)
SAサテライトおよびサテライトのOSプロビジョニングコンポーネントをインストールするために使用するメディア。

SAコアのコアをインストールまたはアップグレードする場合、最初の`hpsa*`スクリプトは`primary`メディアから起動し、サテライトの場合は`sat_base`または`sat_osprov`メディアから起動する必要があります。

SAでは、メディアのディレクトリ構造を維持する必要があります。例を以下に示します。

```
<mountpoint>/<user_defined_prefix>-<media_name>/disk001/opsware_installer/hpsa*.sh
```

`<user_defined_prefix>-<media_name>`には、`hpsa-primary`や`hpsa-sat_base`などを指定します。HPEでは、`hpsa`というプレフィックスと、上記のメディアカテゴリID (`sat_base`、`primary`など)を使用することを推奨しています。プレフィックスを追加しない場合でも、`hpsa`の後にはハイフンを付ける必要があります。

SAはメディアで提供されます。メディアをローカルディスクにコピーするか、NFSマウントポイントとしてマウントしてください。インストールスクリプトを起動するサーバーにすべてのメディアをマウントしてください。次のようにメディアをマウントすると、SAインストーラーはローカルまたはリモートコアホストに自動マウントします。以下に例を示します。

oracle_sas

```
mount oracle_sas.iso /<mountpoint>/hpsa-oracle_sas/
```

primary

```
mount primary.iso /<mountpoint>/hpsa-primary/
```

upload

```
mount upload.iso /<mountpoint>/hpsa-upload/
```

sat_base

```
mount upload.iso /<mountpoint>/hpsa-sat_base/
```

sat_osprov

```
mount upload.iso /<mountpoint>/hpsa-sat_osprov/
```

`<mountpoint>`は、メディアのマウント場所 (`/mnt`など) です。

別のディレクトリ構造を使用する場合は、SAインストーラーがメディアにアクセスする必要があるたびにパスを指定するよう促されます。

パフォーマンスのスケラビリティ

この項では、SAコアとそのコンポーネントのパフォーマンスの向上について説明します。

SAコアコンポーネントは、CPUとメモリを追加することで垂直に拡張することも、複数のサーバーに分散させることで水平に拡張することもできます。

「小規模から中規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)」および「中規模から大規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)」の表に、SAコンポーネントの複数サーバーへの推奨分散方法を示します。どちらの表でも、バンドルされたSAコアコンポーネントは次の方法で分散されます。

- MR: モデルリポジトリ
- インフラ: インフラストラクチャーコンポーネント
 - モデルリポジトリマルチマスターコンポーネント
 - 管理ゲートウェイ
 - プライマリデータアクセスエンジン
- スライス(x):
 - エージェントゲートウェイ
 - コアゲートウェイ
 - コマンドエンジン
 - ソフトウェアリポジトリ
 - コマンドセンター
 - Build Manager
 - Webサービスデータアクセスエンジン
 - セカンダリデータアクセスエンジン
 - Global File System
 - ソフトウェアリポジリアクセラレーター (tsunami)
 - Memcache

コアコンポーネント分散

バンドルされているコンポーネントを導入する際には、使用できるハードウェアとメモリに基づいてSAコアコンポーネントの分散方法を検討する必要があります。一般的なSA 7.5以降のインストールには、3つのメインコンポーネントがあります。モデルリポジトリ、インフラストラクチャーコンポーネントバンドル、1スライスコンポーネントバンドルです。このほかにメディアサーバーとブートサーバーがありますが、メディアサーバーとブートサーバーは、大量の負荷を発生させることがなく、また環境によって異なるため、下の表には含まれていません。

SAインストールのハードウェアを選択するための絶対確実な方法はありません。次に示すのは、高パフォーマンスを期待できるSAコアコンポーネントの推奨レイアウトです。コアの拡張にはスライスの追加が必要です。各スライスにより、可用性の高いUI、API、OGFS、Build Manager、ゲートウェイリソースが追加されます。コアサーバーの数が少ない場合、2台の大型サーバーで開始し、スライスの追加によってコアの容量を増やしていくことを検討してください。以下の表では、次の略称を使用します。

- MR - モデルリポジトリ
- インフラ - インフラストラクチャーコンポーネントバンドル
- スライス<X> - スライスコンポーネントバンドル
- OS Prov - オペレーティングシステムプロビジョニングコンポーネントバンドル

小規模から中規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散		
	サーバー1	サーバー2	
500	MR、インフラ、スライス0、OS Prov	なし	
1000	MR	インフラ、スライス0、OS Prov	
サーバー構成: 4 CPUコア、16 GB RAM、1 GB/s ネットワーク			

中規模から大規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散				
	サーバー1*	サーバー2*	サーバー3*	サーバー4*	サーバー5*

中規模から大規模のSAデプロイメント (SA 7.80以降) (続き)

管理対象サーバー	サーバー別のSAコンポーネント分散				
2000	MR	インフラ、 スライス0、 OS Prov	なし	なし	なし
4000	MR	インフラ、 スライス0、 OS Prov	スライス1	なし	なし
6000	MR	インフラ、 スライス0、 OS Prov	スライス1	スライス2	なし
8000	MR	インフラ、 スライス0、 OS Prov	スライス1	スライス2	スライス3
* サーバー構成: 8 CPUコア、16 GB RAM、1 GB/sネットワーク					

コアパフォーマンスに影響する要因

- SAのハードウェア要件は、次の要因に基づいて変化します。
- SAが管理するサーバーの数
- 同時に実行する操作の数と複雑さ
- コマンドセンターにアクセスできる同時ユーザー数
- SAが稼働するファシリティの数

マルチマスターメッシュのスケーラビリティ

グローバルスケーラビリティをサポートするには、SAコアを各主要ファシリティにインストールし、マルチマスターメッシュ内のコアをリンクします。各ファシリティのSAコアのサイズは、ローカルの要件に従って拡張できます。

マルチマスターメッシュの可用性

マルチマスターメッシュは、モデルリポジトリのレプリケーションに加えて、ソフトウェアリポジトリに保存されているパッケージのレプリケーションとキャッシュもサポートします。通常、各ファシリティ内のコアが、所有するソフトウェアをコアのソフトウェアリポジトリにアップロードしています。パッケージの複数のコピーをリモートのソフトウェアリポジトリに保持すると、可用性が高まります。詳細については、『SA 10.50管理ガイド』を参照してください。

ソフトウェアリポジトリとスライスコンポーネントバンドル、およびソフトウェアリポジトリストアとインフラストラクチャーコンポーネントバンドルのバンドリングは、可用性に影響しません。ソフトウェアリポジトリは、レプリケーター構成ファイルを読み取り、バックアップディレクトリからファイルを供給する方法を決定します。

サテライトコアのCPU/メモリの要件

SAサテライトコアインストールをホストするサーバーは、次の最小要件を満たす必要があります。

- 2 CPUおよび2GB RAM (各サテライトコアの管理対象サーバー1,500台ごと)~ 4 CPUおよび4GB RAM (各サテライトコアの管理対象サーバー3000台ごと)

上に示すように、追加の管理対象サーバーに対応してSAサテライトをホストするサーバーの容量を増やすことができます。SA環境の作業負荷特性は大幅に変化する可能性があり、この作業負荷の変化に伴って該当するSAサテライトの移送容量も変わる可能性があります。SAサテライトの背後に3,000を超えるデバイスが必要なデプロイメントの場合、HPEでは、追加のSAサテライトを同じレベルにデプロイすることを推奨します。このソリューションによって冗長性が強化されるほか、ロード要求の増加に対応して容量を増やし続ける必要があるSAサテライトホストサーバーで、収穫逓減に達するのを防止できます。

コアコンポーネントの負荷分散の追加インスタンス

SAがより大規模な運用環境に対応する必要がある場合、スライスコンポーネントバンドルの追加インスタンスをインストールし、インストールごとに次のコンポーネントを追加することで、パフォーマンスを改善できます。

- エージェントゲートウェイ
- コアゲートウェイ
- コマンドセンター
- ソフトウェアリポジトリ
- Build Manager
- Webサービスデータアクセスエンジン
- セカンダリデータアクセスエンジン
- ソフトウェアリポジトリアクセラレーター (tsunami)
- Memcache

スライスコンポーネントバンドルのインスタンスを複数インストールした場合、コアゲートウェイがロードサービスの要求を受信すると、インスタンス間で負荷分散が自動的に発生します。コアゲートウェイは、受信クライアント接続を処理し、コアのスライスコンポーネントバンドルにクライアント接続の負荷を分散します。

スライスコンポーネントバンドルの追加インスタンスを実行するサーバー用にハードウェア負荷分散装置をデプロイすることもできます。SSLセッション保持 (持続性) のための負荷分散装置を最小接続アルゴリズムで構成できます。

負荷分散装置はコアゲートウェイの前に配置することもできますが、この場合、ゲートウェイの負荷しか分散されません。ただしこの配置には、クライアントの接続アドレスが1つに限定され、スライスコンポーネントバンドルホストの不具合が発生したときにクライアントが正しくフェールオーバーできるという利点があります。

負荷分散はhttpProxy証明書の検証に影響しません。これは、コアのIDが、最終的に要求を処理するサーバーのIDではなく、クライアントが接続に使用するアドレスに基づいているためです。すべてのスライスコンポーネントバンドルに同じ証明書が発行され、証明書に記載されているホスト名が、外部クライアントが接続に使用するDNSホスト名と一致している必要があります。負荷分散装置を使用する場合、これは負荷分散装置のホスト名になります。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムに電子メールクライアントが設定されている場合は、上記のリンクをクリックすると、次の情報が件名行に記載された電子メールウィンドウが開きます。

フィードバック: 計画ガイド (Server Automation 10.50)

フィードバックを追加して [送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが使用できない場合は、Webメールクライアントのメッセージに上記の情報をコピーし、hpe_sa_docs@hpe.com までフィードバックをお送りください。

ご協力をお願いいたします。